

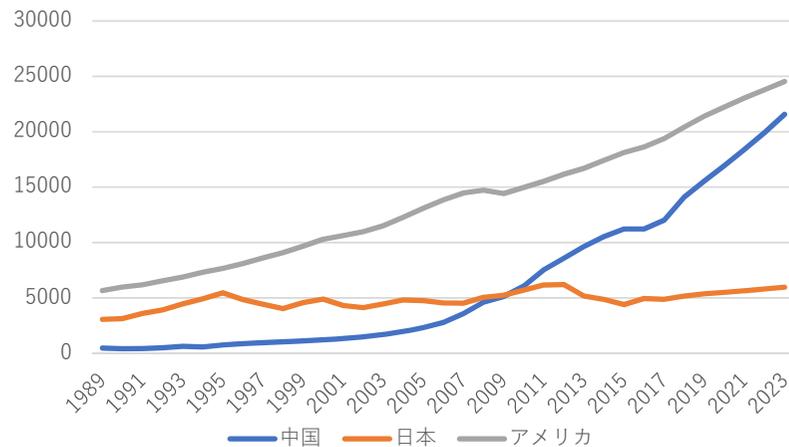
平成はなぜ失敗したのか：失われた30年」の分析」

5月10日 野口悠紀雄

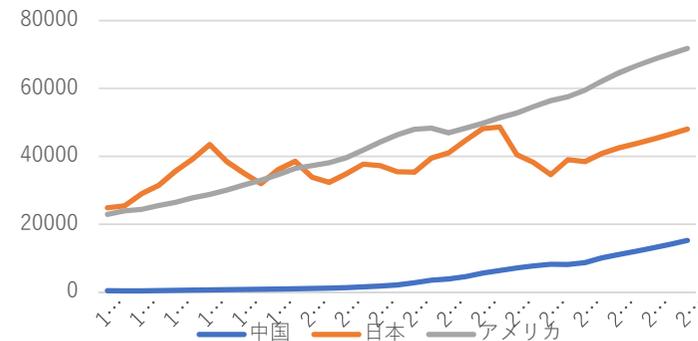
1. 平成時代とは何だったのか？

平成時代に日本の国際的地位は継続的に低下した。中国が工業化し、著しい成長をしたことに対応できなかった。アメリカも新しい産業によって成長した。

GDP(国内総生産) の推移



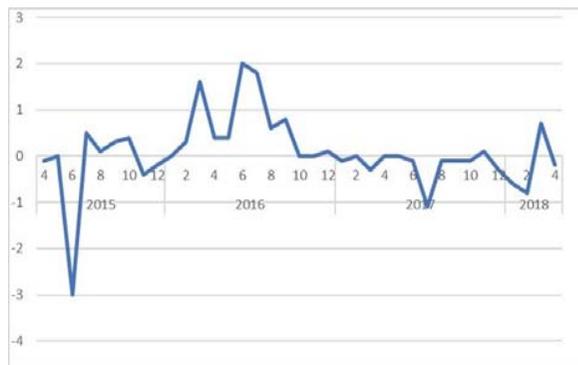
一人当たりGDP(国内総生産) の推移 (単位：ドル)



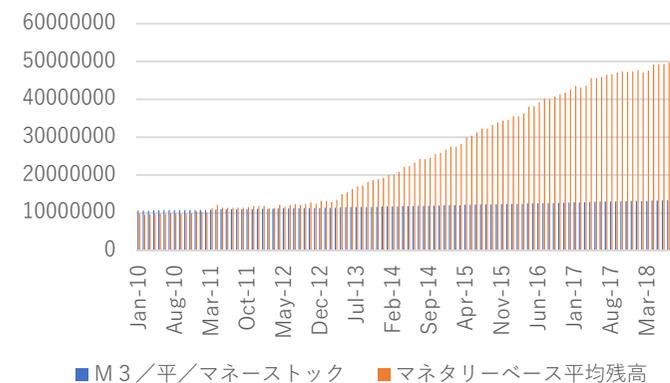
2. アベノミクスは日本経済を活性化したか？

アベノミクスは、企業利益を一時的に増加させ、株価を上昇させた。
しかし、賃金の引き上げと消費の増加は実現できなかった。
異次元金融緩和は、「マネタリーベース」を増加させたに留まり、マネーを増加させなかった。

実質賃金の対前年比（％）



「マネタリーベース」と「マネーストック」の推移



(単位億円)

3. 米中貿易戦争の勝者は？

貿易戦争を単純に考えると、貿易依存度が高い中国の負け。
しかし、アメリカが国内で生産できない製品（鉄鋼など）に関税をかければ、国内物価が上がる。
輸入削減と価格上昇のどちらが大きいかは、価格弾力性による。

貿易戦争に勝者はいない。

アメリカの貿易（2016年、対GDP比、%）

	輸出	輸入
中国	0.62	2.48
EU	1.45	2.24
全世界	7.79	11.75

中国の貿易（2016年、対GDP比、%）

	輸出	輸入
アメリカ	3.43	1.20
EU	3.02	1.85
全世界	18.70	14.15

資料：JETRO

4. 深刻な労働力不足問題

若年人口が減少するため、日本の労働力人口は、将来著しく減少する。
年齢別労働力率が現在から不変とすると、2040年に約1300万人、2060年に約2300万人減少する。
高齢者や女性の労働力率を上げる必要があるが、それでも足りない。
外国人労働者を移民として受け入れるという問題に、正面から向き合わなければならない。

将来の労働力人口（年齢別労働力率不変の場合）

年	15～64歳	65～69歳	70歳以上	計	2015年からの 変化	15歳以上労働 力率（%）
2015	5,878	413	334	6,625		59.6
2020	5,633	352	388	6,373	-252	57.8
2040	4,547	388	412	5,347	-1,278	54.0
2060	3,645	245	440	4,330	-2,295	52.0

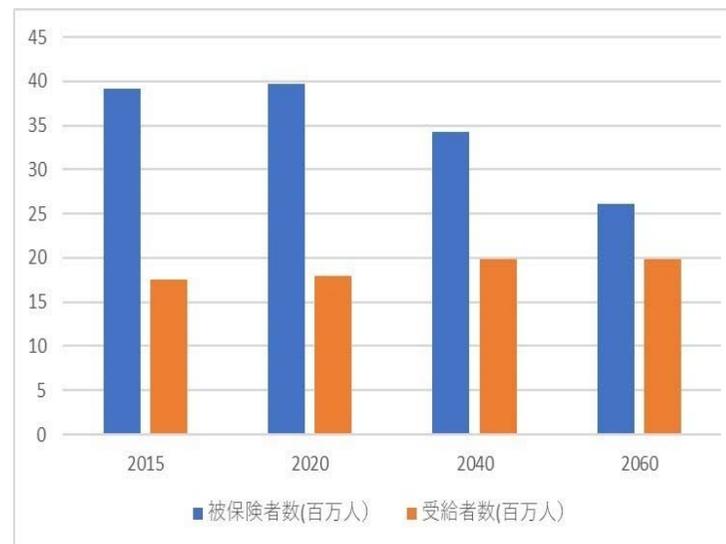
（注）労働人口の単位は万人

5. 社会保障制度は永続できるか？

若年人口が減少し、他方で高齢者人口が増加するので、社会保障の費用負担者は減少し、受給者が増加する。

このため、年金支給開始年齢の70歳への引上げ等の措置が必要になる。今年は「財政検証」の年だが、この問題がどう処理されるのかを注目したい。

厚生年金の被保険者数と受給者数の見通し



野口 悠紀雄（のぐち・ゆきお）

1940年、東京に生まれる。1963年、東京大学工学部卒業。1964年、大蔵省入省。1972年、エール大学Ph.D.（経済学博士号）を取得。一橋大学教授、東京大学教授（先端経済工学研究センター長）、スタンフォード大学客員教授、早稲田大学大学院ファイナンス研究科教授などを経て、2017年9月より早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター顧問、一橋大学名誉教授。

